

秋の立ち上がりはUTOに取っての新年です。待ちに待ったカシミアの秋がやってきてくれました。

秋が来てカシミアが動き始めるとわくわくしてきます。

日本人のノーベル賞受賞の嬉しいニュースが入ってきましたね。凄く凄いと云いながらも、凡人の私には正直、受賞理由がどれほど凄いのか、あまりわからないのが多いのですが、今回の青色発光ダイオードはわかりやすいですね。

代表的な製品のLED電球は超省エネらしい。世界中のエネルギー消費の40%が照明らしいので、これがほとんどLEDに代わったら、化石燃料を沢山使わなくて済むと思うだけでもワクワクします。



ナガサキアゲハ

【北上市：ふるさと納税】  
UTO岩手工場のある北上市の特産品としてUTOのカシミアを取り上げて頂きました。納税額によって、UTO北上工場で作られた、指なし手袋、マフラー、天使のストール、セーターなどがプレゼントされます。是非ご検討ください。

【工場見学ツアーを企画中】  
カシミアニットの製造を見たい、という多くの方のご希望にこたえるべく、ただ今準備中です。

【こんにちわ 小比賀です】

初めまして、企画の小比賀(こひが)です。どうぞ宜しくお願い致します。

夏も終わり、朝晩冷え込む今日この頃。ようやく秋本番!と思っていたさむか、東京では次々と台風が上陸。10階にある青山本社では女性の叫び声のような暴風と激しい雨の音にみまわれまわりました。秋というにはまだまだなのではないか?

そんな前日の悪天候が嘘のようにすっきり晴天になった日、初めての岩手工場訪問に行かせていただきました。工場がある北上市に降り立ってまずはひんやりとした澄んだ空気と綺麗な景色を堪能して、工場に向かいました。普段は工場に着き早速皆さんと打ち合わせ。普段は



岩手工場のマナカド

顔を合わせる事ができない皆さんと直接顔を合わせ仕様や納期について打ち合わせする事ができたこと、依頼した作業の工程が目に見えて把握できた事で今まで以上に「ひとつの依頼をきっちりしていかななくてはと身が引き締まりました。今ではニット製品は中国やベトナム生産が大半を占めています。私が以前勤めていた会社もそうでももちろん工員さんには皆さん日本語は上手なのですが、専門用語や微妙なニュアンスが伝わらなく依頼した通りの思うような製品が出来なかな上がらない時もよくありました。細やかな配慮や言葉のニュアンスがくみ取れそれを形にまでできるのも日本の工場、日本の職人だからこそだと改めて思いました。一人一人が大切に丁寧に作り上げた肌触り抜群の最高級カシミア製品をどうぞご愛顧ください。

【青山・表参道界限】

浮世絵の太田記念美術館

若者の街に伝統の浮世絵が

JR原宿駅から明治神宮を背に坂を下ってゆくと明治通りの交差点ですが、交差点を挟んでラフォーレ原宿と東急プラザがあり、両方ともいつも凄い人でに感じします。中には子供連れというより赤ちゃん連れの若いカップルも目に付きます。外国人も多いし、原宿は若者達にとって東京一の人気スポットのようです。

40年ぐら以前、原宿にはポルトガル領事館があった。当時旅行屋の頃は、ポルトガルやマカオに行くお客様はビザをもらいに来るぐらしか馴染みありませんでした。今、セコムビルのある処は現在の竹下通りとは場違いにグレイドの高い、パレフランサというビルがあり、デイドール、カルダン、ニナリッチ、ジバンシイ等々、かなりセレクトなブランドが入っています。その後、竹下通りには若者の店が集まり原宿はがぜん脚光を浴びてきました。

ラフォーレ原宿の2・5階を裏口から出るとすぐ前に太田記念美術館があります。こんなところで伝統的な浮世絵の美術館とは、ミスマッチな感じがしてピンときません。表の原宿の若者の喧騒とは打って変わった静けさ。ひっそりという感じが以前は銀座にあったようですが此処へ来たいきさつは知りません。

この太田記念美術館は、東邦生命の会長だった太田清蔵がコレクションした12000点にも及ぶ作品を展示する美術館です。太田清蔵という人はUTOがお取引していた博

多大丸の初代社長。というより、博多に大丸を誘致して博多大丸を作った人だそうです。

小さな美術館ですが、中に入るとまず靴を脱ぎます。最初に来た時はこの予備知識がなくビックリしました。お風呂屋さんの靴箱のような気分です。ここでスリッパに履き替えます。中は『薄暗い』といったほうがいいでしょう。浮世絵の色落ちを少なくするために照明を落とすので、スリッパを入ってすぐの左壁には主に肉筆画の掛け軸が展示されています。畳敷きでスリッパを脱いで近くから見ることが出来ます。床の間に入る感じがです。

一階の展示場の中央には日本庭園風のスペースと長椅子が敷かれています。二階にも展示場があります。ザツツオール! 小さな美術館です。

小さな美術館なので常設が少ないのが残念です。地下にタオル屋さんで営業しています。日本情緒たっぷりこの美術館にマッチしていると思えます。日本手ぬぐいがメインです。外からも入れるお店です。毎月最後の3・4日間は入れ替えて必ずお休み。優雅ですね。原宿という若者の街と浮世絵というミスマッチのような取り合わせが面白いです。



カシミア100% 大判天使のストール



LUAS-2101 ¥38,800 税込

天使のストールの愛称でおなじみのUT Oスタンダードアイテムです。大判なのでゆったりと羽織ったり、逆に首元に小さくまとめたり、いろいろな使い方が楽しめます。天使の愛称どおりの包まれるような極上の肌触りは織うだけで、豊かな気持ちにさせてくれます。

カシミア100% タックワンピース



1112-1111 ¥74,520 税込

裾ぐりから落ちるような分量と程よいストレートなシルエットは着る人を選ばない絶妙なバランスです。カシミア100%だからからこそその柔らかな表情で、一枚でも確かな存在感です。

カシミア100%ケーブル柄衿付きカーディガン



1117-2121 ¥97,200 税込

最高級のカシミアを使用した温かみのあるローゲージのケーブル入り衿付きリブカーディガン。衿付きなのできちんと感もあり。着こなし方でもオフにも便利な一着です。

# カシミアとニットの話 \* (四十八)

【セーターはカシミアの2〜3頭分】

ウールの宝石と呼ばれるカシミアは、中央アジアの高地に生息する山羊の仲間です。冬は零下30度にもなる極寒の地ですが、夏は逆に40度を超す気温の変化が激しい処です。

そんな厳しい冬を乗り切るために毛の間に軽く暖かい産毛が生えるのですが、春になるとこのうぶ毛が自然に落ちて夏毛に生え変わります。このうぶ毛を人間が頂いてセーターに利用させてもらっているのですが、あの柔らかいうぶ毛を収穫する為にカシミアをいじめることももちろん殺すこともありません。人間とカシミアはとってもいい共生の関係なのです。

カシミアのうぶ毛を使ってセーターやストールなどを作りますが、いったいどれくらいのカシミアのうぶ毛が必要なのでしょう？

カシミアの毛は、熊手みたいな道具で梳きとりまです。一頭のカシミアから300グラムぐらいの毛が穫れます。ヒツジの毛刈りの様子などを見ることありますが、丸々のヒツジが5分から10分ぐらいで丸坊主になりますが、カシミアはそんなに簡単ではありません。刈るのではなく梳くので一時間ぐらいかかります。私も以前、中国のカシミア産地の内モンゴルでカシミアのうぶ毛梳きを体験させてもらったことがあります。5分ぐらいで腕が張ってくるぐらいい仕事です。

春になるとずっとこのうぶ毛梳きが続く厳しい時期ですが、カシミア牧民にとっては1年の苦勞が報われる嬉しい時なのです。

梳き採った毛は巨大な袋に詰められ専門の業者に売り渡されます。産地には広い地域に転々と放牧している牧民を回って収穫された毛を買い集めるだけの仕事をしている専門業者もいます。

梳き採った毛は土毛(ども)と呼ばれ、うぶ毛だけでなく剛毛と呼ばれる硬い毛、刺し毛、枯れた木や草、土や砂など、カシミアの1年分の汚れがついています。土毛は篩いにかけて砂や泥を落とした後、小

さな植物の枝や葉などを人の手で取り除き洗浄されます。洗浄した後に整毛というカシミア独特の工程でうぶ毛を取り出します。

そのうぶ毛の中でも、良質で長い繊維はニット用として取引され、短い繊維はコートやスーツなどの織物用として、太い繊維や比較的短い繊維は毛布用として取引されます。

一般の人にはあまり知られていませんが、カシミアはニット用が一番良質で高価な原料を使っているのです。

1頭から採れた300グラムの毛は最終的には100グラムしか取れない。その貴重なカシミアを使ったUTOの天使のストールはおおよそ1000グラムです。カシミア1頭分のうぶ毛を使っていることになりすね。レディスのセーターでカシミア2頭分、メンズで3頭分が目安です。ワオー！ですね。それを想うと気持ちもホットになりますよ。

誕生日にはお母さんにお電話しよう！



還暦はとくに過ぎて誕生日を祝ってもらう年でもなくなりませんが、今回はみなさんに誕生日の提案です。母を亡くして10年以上になりますが、30代のころから続けていたことがあります。それは「自分の誕生日には田舎の母に電話する」ことでした。

大正生まれの母は古いタイプの日本人でした。一人前にして世に出るのが常識だった頃です。やんちゃだったので怒られてばかりでしたが、愛情たっぷりの中で、厳しく躰けされた覚えがあります。

我々夫婦は記念日に疎く、誕生日や結婚記念日は頓着なしで、毎年「おめでとう」云うだけで、普通に過ぎてしまします。自分たちに子供がいなくてもあるかもしれませんが、結婚記念日もやることがありません。

そんな超ずばらな私が、「今日は俺の誕生日だから、おふくろに電話しななちや」と田舎に電話するようにになったのはちよつとしたきっかけでした。

30歳代、出張先のホテルで視たTVの出演シーンで、産みの苦しみで生まれてきた赤ちゃんに、「生まれてきてくれて本当にありがとう」と言った言葉に、思わず「ちよちよ」そりだ！と返事を返してしまいました。

それが「誕生日って、俺をこの世に生むために母さんが苦しんでくれた日なんだ、俺の方が母さんにお礼を言わないとおかしい」と思ったのがきっかけです。

普段は電話もかけても来ない息子が突然、「今日の僕の誕生日は母さんが苦しんで僕を生んでくれた日だから」と電話でお礼を言ってきたので、本当に驚いて喜んでくれました。その後毎年の電話には、お礼の言葉はなくても、それを言うために電話してきたということを察して喜んでくれていたよです。

兄の家でもある実家に電話すると、姪っ子が懐かしい島原弁で、「バアチャンは朝からマツチョラシタよ！』といって取り次いでくれました。

「カズね！。今日はあなたの誕生日だもんね、そいで電話くれたつとね。おめでとうね！ありがとうね！」。私は忘れそうになっても、母の方は決して忘れず毎年僕からの電話を待っていたそうです。

残念ながら今はお礼を言う両親が亡くなってしまいました。ですが、貴方のお母さんが健在でしたら、是非お勧めします！貴方からお母さんに「生んでくれてありがとう」と伝えられることを。

「おめでとう」と言われるより「ありがとう」お礼を言ったほうがずっと気持ちがいいですよ。誕生日にはケーキは付き物だけど、「お母さんありがとう」をいうのがセツトになったらいいな。

## 世界のホテルを旅する(四十八) 元 旅行屋のお勧め 八ヶ岳・長野 八ヶ岳高原ロッジ

夏の暑さが厳しくなると高原の爽やかな空気が恋しくなります。特に信州の山が大好きです。清里を過ぎて、野辺山から国道141を外れて八ヶ岳に向かて走ります。海拔1500メートルの雄大な高原野菜と牧場の道は北海道やドイツの田舎を感じさせるドライブコースです。

ホテルの敷地に入ると見事な唐松の並木道がお出迎いです。最初に訪れたときは人の背丈よりちよつと高いくらいだったのが今では十メートル近い見事な並木に成長しました。

ホテルはロッジと云う名前前にふさわしく、緑の中にひっそりと建てられた、素朴な山小屋といった建物です。建物の周りを手入の行き届いた芝生が取り巻き、風見鶏のある赤い屋根が印象的です。

自然をうまく取り入れて、後者の谷の斜面に沿って新館が建てられているので、正面から見た感じは一見平屋建てのように見えます。

ロッジに着いての楽しみは森を歩くこと、まずはヒュッテまで。急げば10分ぐらいで着く谷筋の森の道を、久しぶりに森の匂いに包まれ、季節毎に変化する自然を確かめながら30分ぐらいかけてのんびり散歩すると完全にリゾートモードです。

谷を登りつめて森から出ると、小さな草原と八ヶ岳高原ヒュッテが迎えてくれます。



徳川家の別荘を移築したと云うドイツ風の建物のヒュッテはこのシンボルの存在で、荒削りな木の柱に白い壁、ドイツスタイルの山小屋は八ヶ岳と見事な調和です。それもそのはず、八ヶ岳と調和が取れて敷地の何処からでも望める場所としてここに決めたと云うのを、高原ロッジの初代支配人の杉本さんに教えてもらいました。

晴れた日はここから八ヶ岳の山頂直下の山小屋まで望めて、その迫力に圧倒されます。

1980年代このヒュッテが現役で宿泊施設としても使われていました。夏でもストロブが入っていて、歩くときギンギンと音をたてる床や、全館で一つしかない不変な風呂。階段の手彫りの見事な熊の一刀彫り。一階のじいさんまりの音で目覚め、八ヶ岳の自然の厳しさを体験したことが懐かしい。

今は夏の間の喫茶だけになってしまったのが残念です。また、敷地の中に素晴らしい音響の音楽堂があり有名なプロの室内楽などのコンサートも開かれています。バブル期に多く作られた箱物リゾートと違い、脅かすようなところは見受けられない、大人のリゾートです。